

LPガス消費者のエネルギー機器の利用状況と意識に関する調査結果概要

1. 実施者

新日本石油ガス株式会社

2. 調査概要

(1) 目的

販売事業者のLPガス(機器)販売数量を増やして、経営改善を図ることを目的に、そのための施策策定の基礎データとして、LPガス消費者を対象に、ガス機器および競合する電気・石油機器等の利用状況等とお店のそれぞれの評価や意識等の調査を行った。

(2) 実施方法

全国44万世帯のLPガス消費者を対象にして、14万世帯への郵送(ミニコミ誌への綴り込み配布)調査と30万世帯へのWeb調査を実施し、8,764世帯分の有効回答を得た。

3. 調査結果概要

(1) 実態調査

ガス機器や電気・石油機器に期待する役割や機能について

- ・ 風呂場全体を暖かく58%、部屋の湿湿度を快適に47%、蛇口から即お湯を42%

ガス機器購入のポイントについて

- ・ 安全性78%、省エネ57%、価格46%

お店に対する評価について

- ・ 安全点検や料金表の配布、器具の特色等説明不足を指摘する声が多い
- ・ 不満と感じている消費世帯は全体の14%
- ・ 機器購入後のアフター、丁寧な対応、安全点検の実施、故障時の素早い対応等が消費者の販売店に対する満足度に大きな影響を及ぼす。

ガス機器や電気・石油機器について

- ・ ガス機器で評価が高い項目は、火力が強い
- ・ 電気機器で評価が高い項目は、安全性、機能が豊富、手入れ簡単、環境性、省スペース、デザインの良さ

今後使ってみたい機器について

- ・ IHヒーター42%、電気食洗機32%、ガステーブル(コンロ)29%

光熱費について

- ・ LPガス代が高いと感じている人58%、電気代が高いと感じている人68%、灯油代が高いと感じている人31%

4. 調査結果から得られた効果ならびに今後の活用と取り組み

今回の調査結果から判明した以下の点について、効率的に対策を打つことによって、ガス機器やLPガスの増販が可能であり、販売店指導として卸売事業者とともに活用する。

ガス機器について

- ・ 人気の高いIHヒーター、電気食洗機に対抗するガス機器として、最新型ガステーブルやガス食洗機、さらには、唯一電気機器より優位と評価されたガス床暖房を重点的に提案販売すべきである。
- ・ ガス機器は電気機器に比べて、省エネという評価は高いものの、安全性では劣っているとの評価であり、この長所・短所を押さえて提案すべきである。

販売店について

- ・ 販売店の対応に満足している人は、半数にとどまっており、特に機器購入後のアフター丁寧な対応、安全点検の実施、故障時の素早い対応等について、不満解消が求められている。

電気機器への対抗について

- ・ ガス機器販売のメインターゲット層は子供を持った共働きの30～40代夫婦世帯であり、より新しい、より高機能がキーワードとなっている。「暖房、調理、給湯、乾燥ならガス機器」という提案を積極的展開し、これらの意識の刷り込みが肝心である。

5. 補助金確定額

16,743,754円